知りたい！ 治療の最前線 ◇35

単孔式手術

傷口1ヵ所 痛み少なく

術後の傷が目立ちにくく、体への負担も軽い「単孔式手術」が近年普及しています。富山大附属病院呼吸器外科でもこの手術を積極的に取り入れ、実績を上げています。どのような治療なのか、専門医が解説します。

一口メモ

肺がん治療において、肺葉切除術が標準的な手術となっている。単孔式による肺葉切除術は2011年にスペインの医師が初めて報告した。日本では約2年前から注目され始めたが、難易度が高く、実施できる病院はまだ少ない。健康保険が適用され、費用は従来の胸腔鏡下手術と変わらない。

本間 崇浩
富山大附属病院
呼吸器一般外科副診療科長

高齢でも早い退院可能

呼吸器外科では、肺がんなど胸の腫瘍に対する手術を中心に行っています。患者さんの多くが無症状の高齢者で、検診で異常が見つかって受診される方がほとんどです。私たちは病気を治すことはもちろん、なるべく痛みや苦しさを抑え、傷をできるだけ小さくすることを常に心掛けています。

短い手術・麻酔時間

呼吸器系の疾患で手術を行う場合は肋間を切開する必要があります。いくら穴が小さくても、数が多ければ肋間神経痛が起きやすくなります。ちなみに注目を集めているロボット手術でも、最低4カ所の穴を開けなければなりません。

私は体に優しい治療を目指し、一つの穴による単孔式手術を2014年に始めました。脇の下1カ所を切開し、その穴から鉗子と内視鏡（カメラ）を挿入して従来と同じように手術します。傷口は体内で吸収される糸で縫うため、抜糸の必要はありません。

傷が1カ所であるため、体のダメージは非常に小さいです。これまでの胸腔鏡下手術に比べて明らかに痛みが少なく、手術時間、麻酔時間は平均で90分も短くなりました。さらに術後の入院期間は2日間短縮し、肋間神経痛にもなりにくいことが分かりました。当初は簡単な手術にのみ実施していましたが、18年には肺葉切除術や肺区域切除術といった難しい手術にも取り入れました。

ほとんどの患者さんに実施できますが、臓器に強い癒着がある場合、5センチ以上の腫瘍がある場合、乳幼児の場合には行えません。これらの方には従来の胸腔鏡下手術か開胸手術を検討します。

家族の負担軽減

単孔式手術は最新の体に優しい手術であり、高齢の方でも早い退院が期待できます。患者さんが早く回復することは、家族にとっても負担を減らすことにつながります。

ただ、単孔式手術は非常に高い技術を要するため、特殊なトレーニングが必要です。現在、全国で単孔式手術を実施できる病院は当院を含めてごくわずかです。私は県内だけなく、日本全体に広まるように医療者向けの講演会や講習会で手技やメリットを紹介しています。

体に優しく、過度な負担がかからない「単孔式手術」は入院日数が短く、合併症も少ないため、患者さんと家族の負担軽減だけでなく、医療コストの削減にもつながります。日本の将来を見据えた治療を実践することが、日本の未来に大変重要だと考えています。

◇

次回は21日に掲載します。

単孔式による肺葉切除術で切開した部分（3センチ）

図 胸部の手術方法